

講演会・セミナーのご紹介

基調講演 11月24日(水) 13:30～15:00 会議棟1階 レセプションホールB

「課題先進国」日本の進むべき道

課題先進国日本にとって、CO₂の25%削減はチャンスである。日本のエネルギー消費は、家庭、オフィス、輸送の「日々の暮らし」が55%、素材、自動車、家電などの「ものづくり」が45%を占める。削減余地の大きい日々の暮らしでCO₂を削減しよう。そして、環境にやさしく高齢化に対応した快適なまちを全国につくっていかう。



講師 株式会社三菱総合研究所 理事長
小宮山 宏氏

東京大学大学院工学系研究科卒。
国立大学法京東京大学総長を経て現職。
主な著書に「課題先進国」日本、
「知識の構造化」講演、「低炭素社会」など。

聴講
無料
事前登録制

NMIJ 法定計量セミナー 11月25日(木) 10:30～16:15 会議棟1階レセプションホールB

～法定計量における計量器規制の最新動向～

法定計量分野における国際動向及び計量器の信頼性を確保するための最新の適合性評価技術について紹介します。

10:30～10:35 挨拶 経済産業省 産業技術環境局 知的基盤課 計量行政室長 吉川 雅之氏

法定計量における国際的な動き

(独) 産業技術総合研究所 計測標準研究部門 法定計量技術科 研究員 小谷野 泰宏氏
OIMLの組織の概要、国際動向及び文書の種類、技術委員会(TC)と分科会(SC)の構成や活動状況など法定計量における最新の国際動向について紹介する。

11:35～12:20 非自動はかりにおけるモジュールの評価方法

(独) 産業技術総合研究所 計測標準研究部門 力学計測計量試験技術室 研究員 藤本 安亮氏 高橋 豊氏
非自動はかりにおける重要な要素(モジュール)である指示計及びロードセルについて、産総研実施している評価方法の紹介を行う。

13:30～14:15

最近の電気計器の動向等について

日本電気計器検定所検定管理部
検定管理グループグループマネージャー 畠山 修氏

近年、電気計器においては、技術革新やニーズの多様化に伴い、従来の機械式計器から電子式計器への移行が進み、一般家庭についても電子式計器の導入が増えていく状況にある。そこで、電気計器の変遷、試験基準及び最新の動向等を紹介する

14:30～15:15

ソフトウェア制御計量器認証の動向について

(独) 産業技術総合研究所計測標準研究部門
計量標準システム科、法定計量技術科 研究員 松岡 聡氏

OIML D31 の紹介 JIS B7611-2(2009)に基づく指示計ソフトウェア依頼試験の概略

15:30～16:15

計量器に対する電磁環境試験に関する標準化について

(独) 産業技術総合研究所
計測標準研究部門 計量標準技術科型式承認技術室長 三倉 伸介氏

特定計量器の型式承認において実施される電磁環境試験について、各分野に横断的な試験手法の部分を中心に標準化する事業を紹介する。

聴講
無料
事前登録制

技術講演会 11月25日(木) 11:00～16:45 会議棟1階101会議室

11:00～12:00

ISO50001の概要と策定状況

(財) エネルギー総合工学研究所
プロジェクト試験研究部主管研究員 後藤 信之氏

ISO50001は、2011年4月発行(2010年9月現在の予定)を目指してISO/PC242にて策定中のエネルギーマネジメントシステムの国際規格である。組織(事業所、企業等)のエネルギーパフォーマンスおよびマネジメントシステムを継続的に改善するための要求事項を記載した規格であり、同様のマネジメントシステム規格には、品質マネジメントシステム(ISO9001)や環境マネジメントシステム(ISO14001)などがある。日本では、(財) エネルギー総合工学研究所が国内審議団体となり、国内審議委員会を設けて、我が国の実態や省エネ技術・経験を経験に反映させるべく、我が国の対応を協議している。今年度のPC242の主要なイベントとしては、3月26日に配信されたDIS(国際規格案)に対する投票コメント(期限は8月26日)、10月下旬の第4回国際会議(北京)・FDIS(最終規格案)の配信と投票が予定されている。また、規格策定と並行して、国内ではIS(国際規格)発行後に迅速にJIS発行を行うために、DISの段階からJIS原案作成を開始している。

13:15～14:15

計測ソリューションの国際規格／ISO 10012計測マネジメントシステム

愛知県計量連合会 計量士
計測管理規格 JIS Q 10012 の普及活用のための調査研究委員会委員 中野 廣幸氏

中国において計測管理の国家規格としてすでに採用され、日本では来年3月にJIS Q 10012として発行が予定されているISO10012計測マネジメントシステムに関して、その概要を紹介し、導入展開に伴う効果を明確にする。

14:30～15:30

高圧ガスの動向について

高圧ガス保安協会
総合企画部規格調整課長 鳥越 利之氏

高圧ガスは、産業・家庭において広範・多岐にわたり利用されている。高圧ガス保安法は、高圧ガスによる災害を防止し、公共の安全を確保するため高圧ガスの製造、貯蔵、販売、容器の製造などを規制している。同法の概要及び動向について報告する。

15:45～16:45

最近の高圧ガス事故事例について

高圧ガス保安協会
情報調査部 事故調査課 上田 洋平氏

近年、高圧ガス保安法に関係する事故が増加している。事故を防止するためには、原因を究明し、事故から得られた再発防止策、教訓などを周知する必要がある。最近の高圧ガス設備で発生した事故の原因、再発防止策、教訓について報告する。

聴講
無料
事前登録制

★講演会・セミナーの事前登録は本展ホームページより登録してください ▶ <http://intermeasure.jp>

※予告なく講演プログラムを変更する場合があります。ご了承ください。

NMIJ 計量標準セミナー 11月26日(金) 11:00～16:20 会議棟1階レセプションホールB

第3期を迎える(独) 産業技術総合研究所計量標準総合センター(NMIJ)の計量標準整備の最新の取り組みを紹介します。

11:00～11:10

イントロダクトリートーク

「産総研第3期におけるNMIJの取り組み」

(独) 産業技術総合研究所
計量標準管理センター長 三戸 章裕氏

第1期、第2期中の計量標準の整備と普及を振り返りつつ、第3期の産総研の事業戦略と連動したNMIJの取り組み方針を紹介する。

11:10～11:55

グリーンイノベーションの実現を支える計量標準の整備

「次世代省エネ照明の信頼性確保のためのLED測光標準の開発と展望」

(独) 産業技術総合研究所
計測標準研究部門光放射計測科長 座間 達也氏

持続発展的な社会を実現する上で、省エネルギー技術の推進は欠かせない。ここでは、その代表的な事例として次世代省エネ照明として期待されるLEDの測光標準の開発の現状と展望を紹介する。

13:30～14:15

ライフイノベーションの実現を支える計量標準の整備

「医療機器の安全性確保のための放射線標準の開発」

(独) 産業技術総合研究所
計測標準研究部門 量子放射科放射線標準研究室長 齋藤 則生氏

少子高齢化の時代を迎えた日本が活力ある「健幸」な社会を築くためには、ライフイノベーションとその基盤となる計量標準が不可欠である。ここでは、放射線治療・X線診断など放射線が利用されている医療機器の安全安心や高度利用のために開発している標準の現状と展望を紹介する。

14:30～15:15

産業の国際展開を支える計量標準の整備

「無線利用と電磁波関連規制に係る計量標準の整備」

(独) 産業技術総合研究所
計測標準研究部門 電磁波計測科電磁界標準研究室長 黒川 悟氏

グローバル化する通商の世界で、国際展開を図るためには、非関税障壁ともなりかねない各種技術規制への機動的な対応が必要である。ここでは、各種無線機器を支えるアンテナ、高周波測定器等、電磁波規制等(EMCなど)に係わる計量標準整備の現状と展望を紹介する。

15:30～16:15

次世代の計量標準と校正システムの開発

「秒の定義変更と時間・周波数校正システム」

(独) 産業技術総合研究所
計測標準研究部門副部門長 瀬田 勝男氏

時間周波数標準では関連分野の技術革新が急速に進んでおり、「秒の定義変更」が現実的な課題になるとともに、GPSを仲介とする遠隔校正システムが確立してきた。この分野全体の現状と展望を紹介するとともに、「質量の定義変更」後に予想される単位系の中での時間周波数標準の意義について紹介する。

16:15～16:20

コングルーディングリマークス

(独) 産業技術総合研究所
計測標準研究部門副部門長 瀬田 勝男氏

まとめと展望:国内・国外、計量標準・基準認証 などの拡がり

聴講
無料
事前登録制

併催セミナー 11月26日(金) 10:00～17:00 会議棟1F 101会議室

日本と世界の防爆—規格動向解説—

- 内容 ①日本における海外防爆製品の認証手順(仕組み)とその注意点 ②中国における防爆適用規格の解説 ③アメリカにおける防爆適用規格の解説 ④世界の防爆規格の概要と動向

主催 日本工業出版(株) お問い合わせ・申込み先:日本工業出版(株)セミナー事業部
TEL 03-3944-1181 FAX 03-3944-6826

聴講

お一人 47,250円 (税込・テキスト代含む)
※3名以上ご参加の場合はお一人様31,500円

事前登録制

会場への交通

- りんかい線:
新木場駅(JR、東京メトロ)約6分→国際展示場駅(下車徒歩7分)
大崎駅(JR)約13分→国際展示場駅(下車徒歩7分)
- ゆりかもめ:
新橋駅(JR、東京メトロ・都営地下鉄)約20分→国際展示場正門駅(下車徒歩3分)
豊洲駅(東京メトロ)約8分→国際展示場正門駅(下車徒歩3分)
- 都営バス:
東京駅八重洲口(JR)東16系統(豊洲駅前経由)→約35分→東京ビックサイト下車
門前仲町(東京メトロ・都営地下鉄)海01系統(豊洲駅前経由)→約30分→東京ビックサイト下車
- 首都高速道路:
台場・有明・13号地出口から約5分

●出展者名



第24回 国際計量計測展

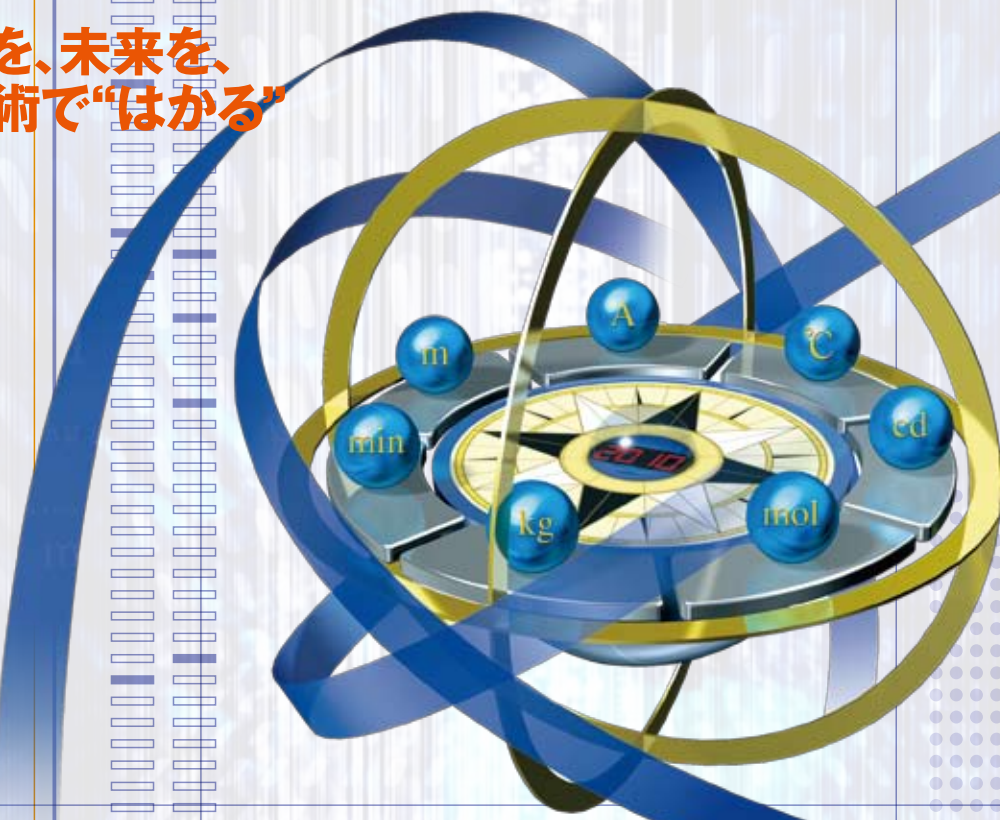
INTERMEASURE 2010

会期 2010.11/24^{WED} ▶ 26^{FRI} 会場 東京ビッグサイト 東5・6ホール

展示内容

下記用途に最適な各種計量計測機器、システム、データ処理装置及び関連機器を幅広く展示しています。
品質管理／試験・検査／研究開発／分析／環境測定／設備診断／工程管理／プロセス／制御／搬送／取引／質量測定／セキュリティ／その他関連周辺機器・システム

地球を、未来を、
技術で“はかる”



無料進呈

開催期間中に限り、総合カタログ
「計量計測機器総覧2010/2011」を
毎日先着4,000名様に無料進呈します。

同時開催

Sensor Expo Japan 2010

第5回
総合検査機器展

※この招待券で上記2つの展示会も參觀できます。

主催 社団法人 日本計量機器工業連合会

後援 経済産業省／環境省／独立行政法人 産業技術総合研究所／独立行政法人 製品評価技術基盤機構／独立行政法人 日本貿易振興機構(ジェトロ)

協賛 社団法人 エルピーガス協会／一般財団法人 化学物質評価研究機構／社団法人 火力原子力発電技術協会／財団法人 機械振興協会／社団法人 計測自動制御学会／財団法人 省エネルギーセンター／一般社団法人 情報通信ネットワーク産業協会／石油連盟／社団法人 セメント協会／社団法人 全国清涼飲料工業会／全国石油商業組合連合会／社団法人 全国燃料協会／社団法人 全国木工機械工業会／社団法人 電子情報技術産業協会／社団法人 都市エネルギー協会／社団法人 日本アルミニウム協会／社団法人 日本印刷産業機械工業会／日本科学機器団体連合会／財団法人 日本科学技術振興財団／社団法人 日本化学工業協会／社団法人 日本果汁協会／社団法人 日本ガス協会／社団法人 日本缶詰協会／社団法人 日本機械学会／社団法人 日本機械工業連合会／社団法人 日本計量振興協会／社団法人 日本下水道協会／社団法人 日本下水道施設業協会／一般社団法人 日本検査機器工業会／社団法人 日本建設機械化協会／社団法人 日本建設機械工業会／社団法人 日本航空宇宙工業会／社団法人 日本工作機械工業会／社団法人 日本産業機械工業会／財団法人 日本産業技術振興協会／一般社団法人 日本自動車工業会／社団法人 日本自動車部品工業会／日本商工会議所／社団法人 日本食品機械工業会／社団法人 日本植物油協会／社団法人 日本水道協会／日本スーパーマーケット協会／社団法人 日本造船工業会／日本チェーンストア協会／社団法人 日本鉄鋼連盟／社団法人 日本鉄道車輛工業会／社団法人 日本電気協会／日本電気計器検定所／社団法人 日本電機工業会／社団法人 日本乳業協会／社団法人 日本農産機械工業会／社団法人 日本船舶工業会／財団法人 日本発明振興協会／社団法人 日本パン工業会／社団法人 日本非破壊検査工業会／日本百貨店協会／財団法人 日本品質保証機構／社団法人 日本プラント協会／社団法人 日本プラントメンテナンス協会／社団法人 日本フルードパワー工業会／社団法人 日本粉体工業技術協会／社団法人 日本ベアリング工業会／社団法人 日本包装機械工業会／社団法人 日本冷凍空調工業会／社団法人 日本ロボット工業会／社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会／公益社団法人 ロングライフビル推進協会／財団法人 流通システム開発センター



社団法人 日本計量機器工業連合会
JAPAN MEASURING INSTRUMENTS FEDERATION
www.keikoren.or.jp

主催 社団法人 日本計量機器工業連合会

〒162-0837 東京都新宿区納戸町25番1号
<http://www.keikoren.or.jp> TEL.03-3268-2121 FAX.03-3268-2167

